

## — 気象業務紹介 —

### 新しい台風情報

札幌管区气象台技術部予報課

#### 1. はじめに

気象庁では、台風による被害の防止・軽減に資するため、台風情報等の精度の向上および内容の充実に努めている。

国民の皆様や各機関が行うきめ細やかな防災対応を支援するため、台風予報の時間間隔をさらに細かく発表するなどの台風情報の改善を平成19年4月18日以降に新たに発生する台風に対して行っている。

今回は、この新しい台風情報の概要を紹介する。

#### 2. 概要

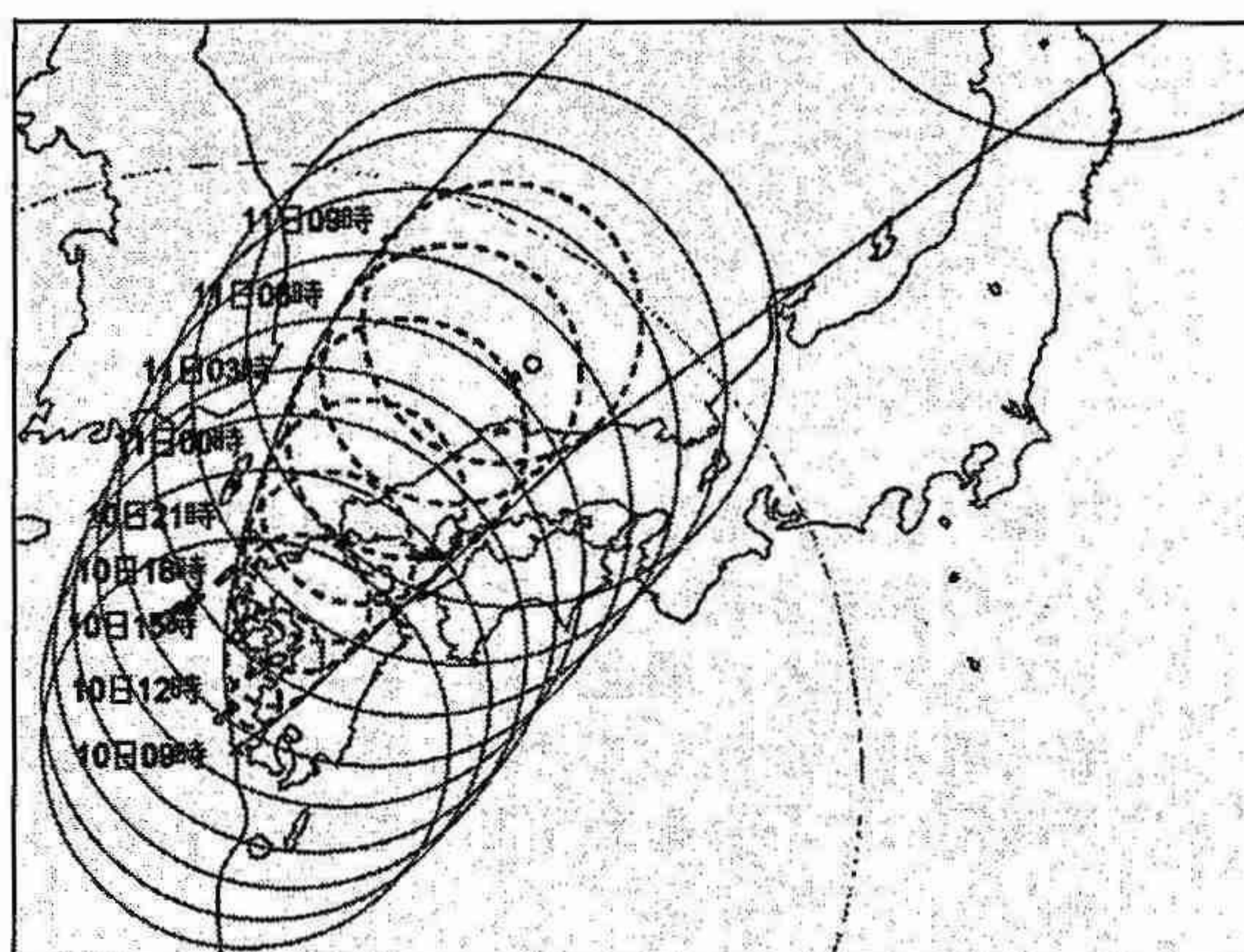
台風情報改善の概要は、(1)～(5)項の新たな予報要素の追加と新たな情報の発表、および(6)(7)項は台風情報の表示方法の変更である。

- (1) 24時間先までは12時間刻みの予報から3時間刻みの予報に変更した。
- (2) 新たに最大瞬間風速の情報を追加した。
- (3) 熱帯低気圧に関する情報に新たな情報を追加した。
- (4) 温帯低気圧に変わった後も暴風を伴う場合は、台風時と同じ形式で情報を発表することに变更した。
- (5) 新たに暴風域に入る確率の分布図を追加した。
- (6) 予報期間の暴風警戒域全体を囲む線を追加した。 ※
- (7) 予報円の中心の点やそれを結ぶ線を追加した。 ※

※気象庁ホームページにおける台風の進路予報の図表示では、より分かりやすくなるように(6)(7)のとおりに表示方法を自由に変更することができるようになっている。

#### 3. 具体的な改善

- (1) 日本付近では、24時間先までを3時間刻みに予報し、予報円と暴風警戒域を表示し(第1図)、きめ細かい予報を発表することにした。
- (2) 台風による風の被害は、最大風速よりも、むしろ最大瞬間風速が直接影響を及ぼすとされていることから新たに最大瞬間風速の情報を追加し、風に関しての警戒を一層強めることにした。
- (3) 熱帯低気圧に関する情報を充実し、24時間以内に台風になると予想される熱帯低気圧すべてについて、台風解析・予報情報電文を配信する。



第1図 3時間ごとに表示した予想図

これにより、気象庁ホームページを始めとする各種メディアで台風と同様に進路予想図を見ることができるようになる。

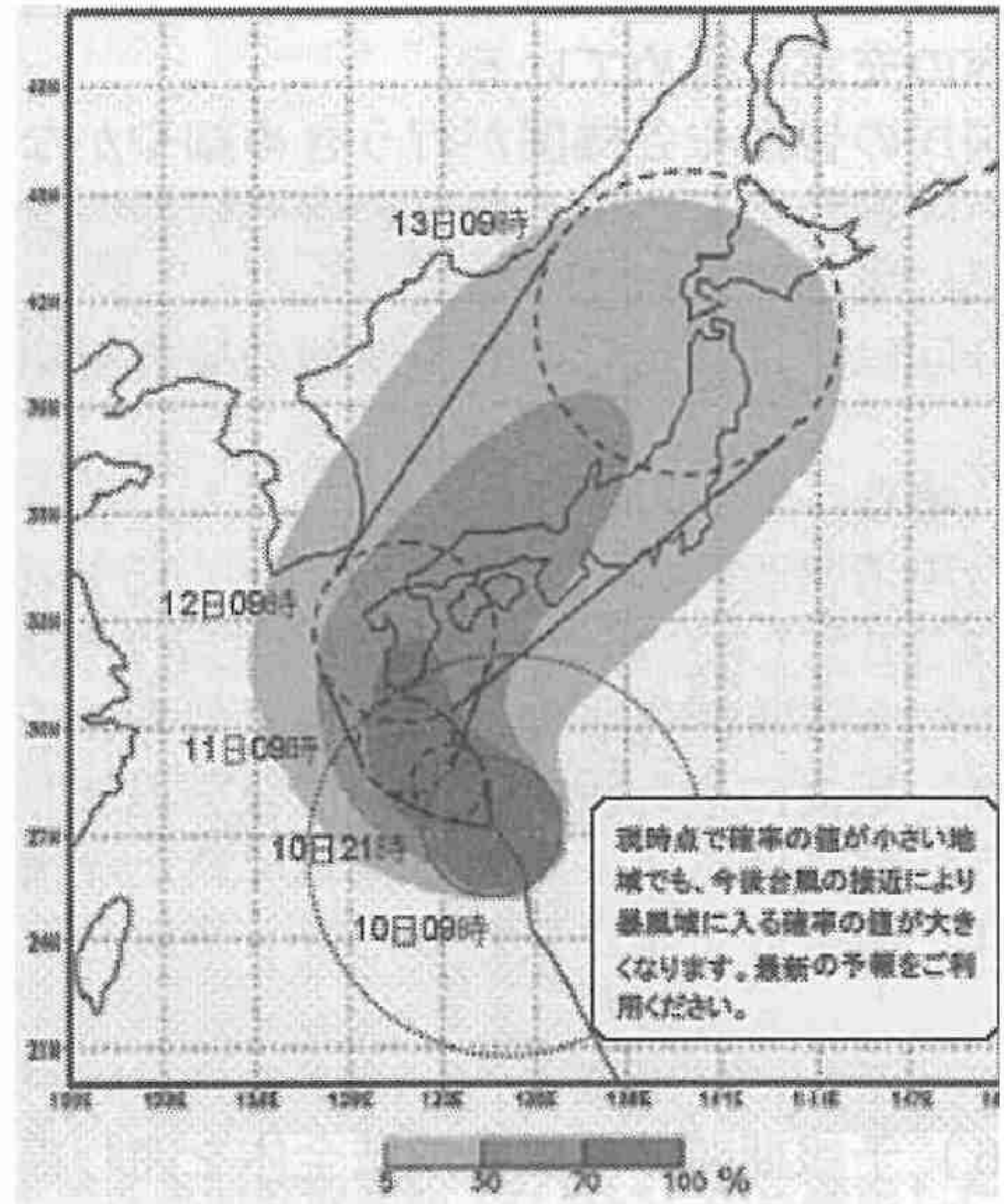
- (4) 温帯低気圧に変わりつつある台風に関する情報を充実し、台風から温帯低気圧に変わった後も暴風を伴って災害を及ぼすような場合には、防災警戒体制を緩めないようにするため、台風時と同じ形式で発表する。

同じ形式で発表することにより台風情報として毎時の情報の提供を実現したり、報道機関や防災機関、一般住民などの台風に関する防災警戒体制が継続するという効果がある。

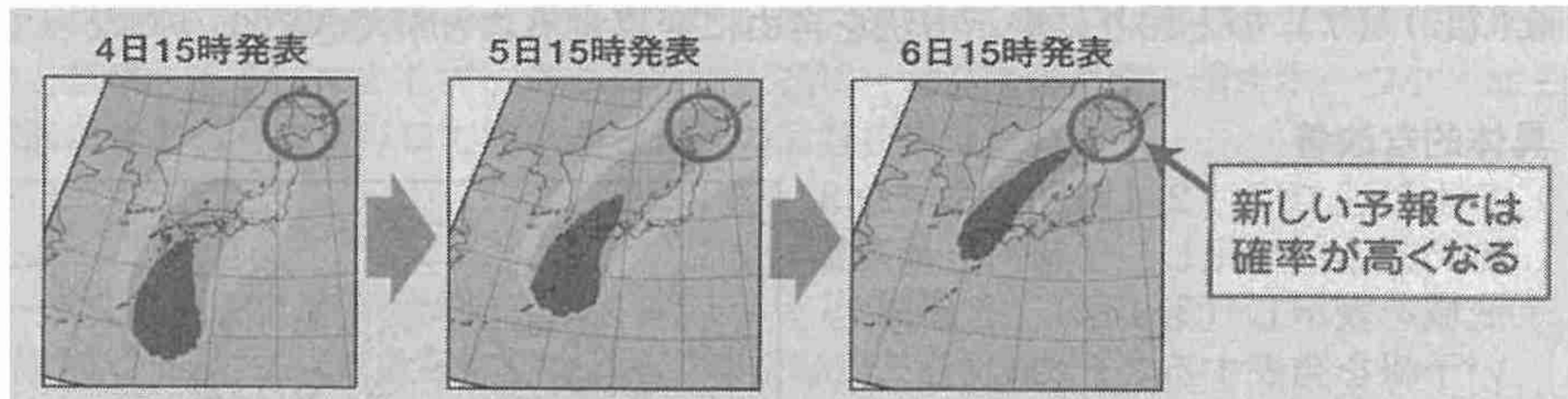
- (5) 台風時における細かな防災対応判断を支援する情報として、72時間先までの時間帯に暴風域に入る確率を示す「暴風域に入る確率の分布図」を提供する(第2図)。

ただし、始めは、確率が低くても台風にあたる場所では、台風が近づくとつれて確率が高くなっていくことに注意が必要である。

第3図のように台風の進行方向にあたる北海道(円内)において、4日の予報では確率が低いですが、5日の予報と6日の予報では確率が高くなるので警戒が必要となってくる。



第2図 暴風警戒域に入る確率の分布図

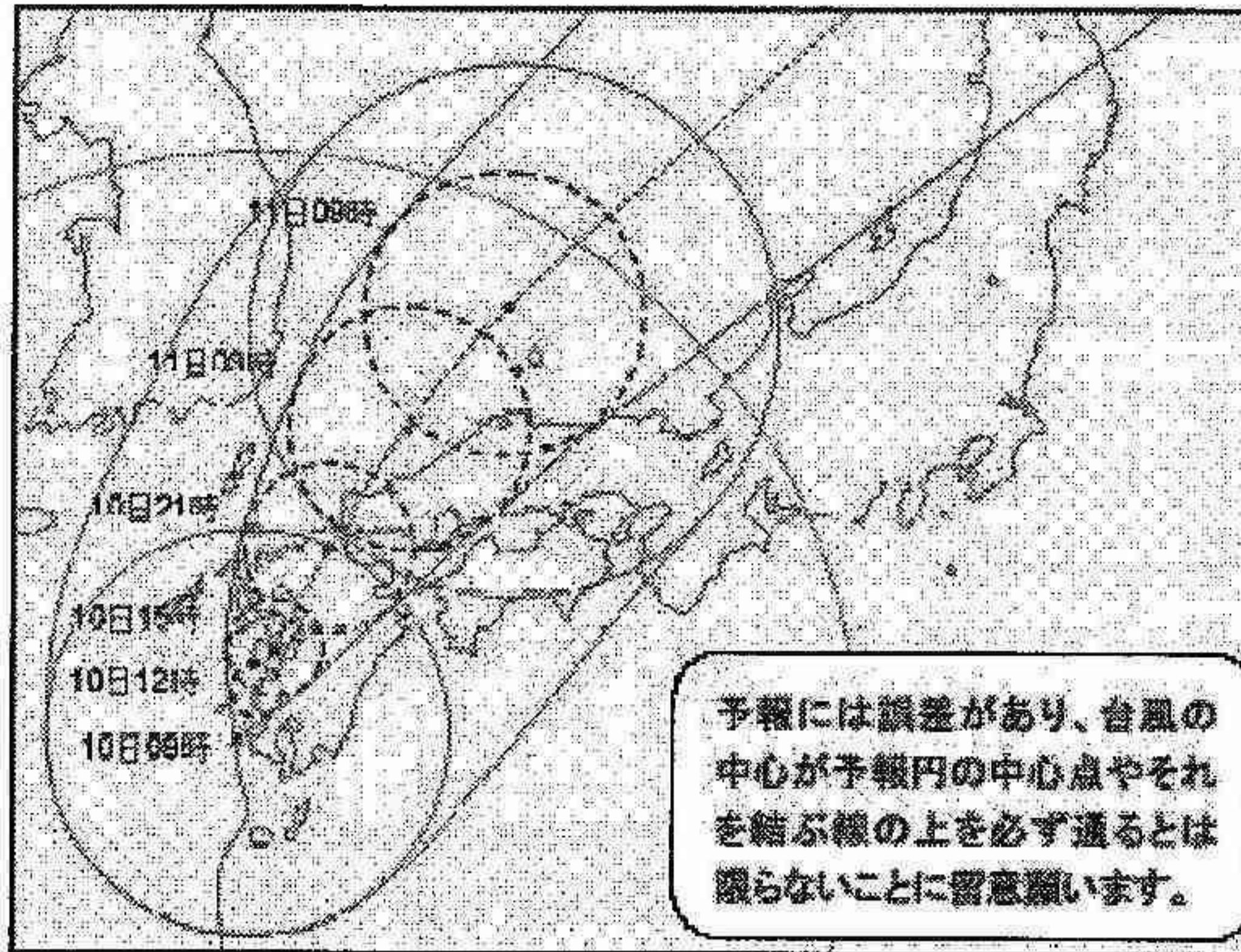


第3図 4日、5日、6日それぞれに発表した暴風警戒域に入る確率の分布図

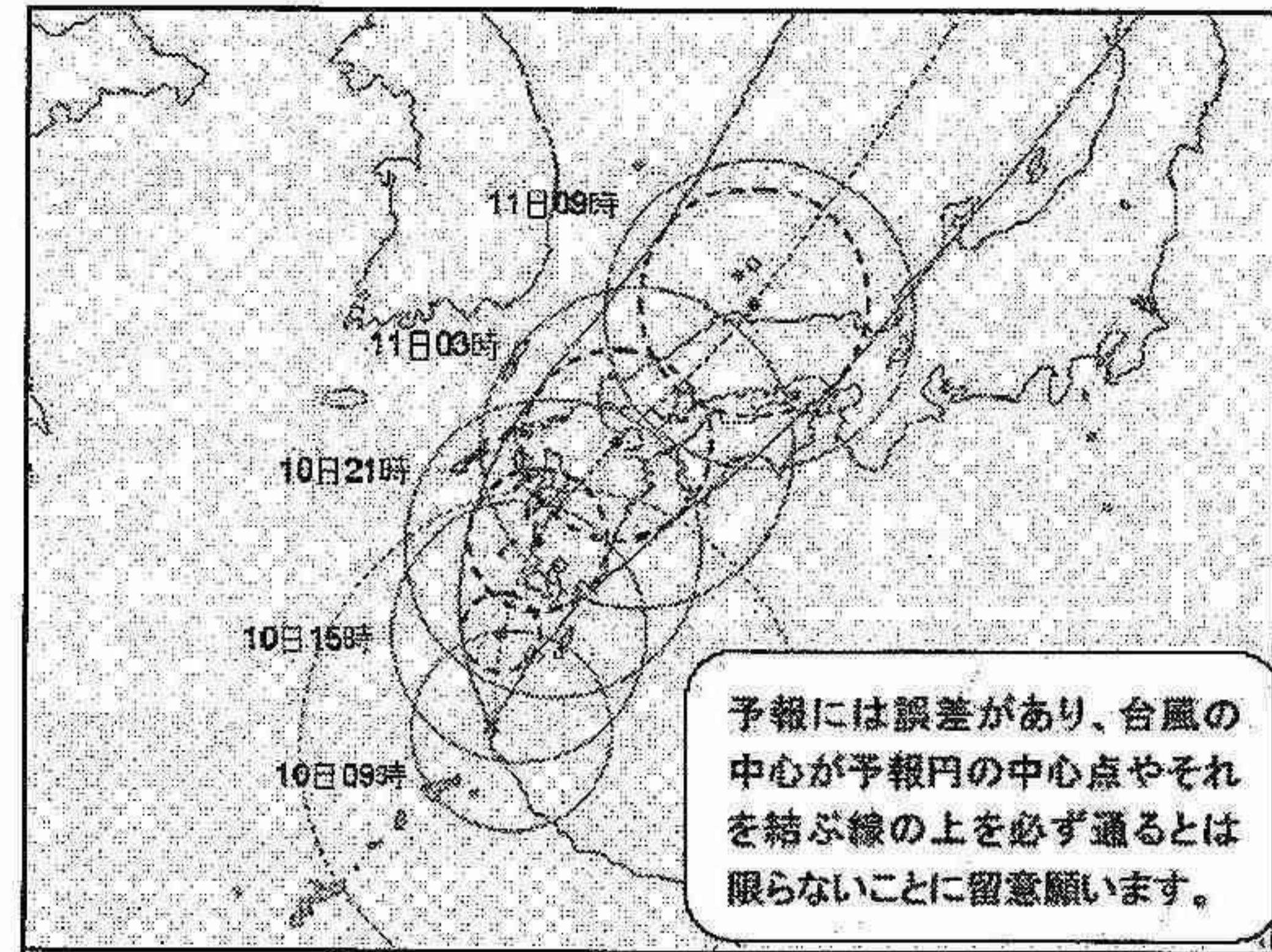
- (6) 予報円及び暴風警戒域は、各時刻の円が重なり合っ見えにくい場合には、一部時刻の円の表示を省略することができるようにした。暴風警戒域は、さらに円が重なり合っ見えにくい場合には、各時刻の円の表示に代えて、これら円の通過する範囲を実線で表示したりして分かりやすくする工夫をした(第4図)。

- (7) 予報円の中心点を表示し、さらに予報円の中心点を結ぶ線を破線で表示するように工夫した。

ただし、台風の進む角度は予報円の中心が最も高いが、中心線から東西にそれる場合があるので台風の中心がこの点や線上を進むかのような誤解を招かないような解説が図中に入る(第5図)。



第4図 暴風警戒域を接線で表示した図



第5図 予報円の中心点やそれを結ぶ線を表示した図